

交換留学レポート

所属：
交流文化学部
交流文化学科 ランゲージ専攻

氏名：
本田 若菜

留学時期：
2022年度夏季派遣交換留学
(2022年9月渡航)

留学先大学

中央大学校 (韓国・ソウル)

留学を志したきっかけ

大学で学んだ韓国語を活かし現地で学生生活を送りたいと思ったからです。

大学の授業

中央大学校に留学中は、国語国文学科に所属し、主に韓国語正書法と社会言語学について学びました。授業では国立ハングル博物館の見学(個人)やレポート作成、街にある誤ったハングル表記についてのレポート作成、またグループでの発表もありました。現地の学生や他国からの留学生と関わる機会が多かった印象があります。

留学生活

中央大学校のソウルキャンパス内は敷地が広く、寄宿舎を含めほとんどの建物が急な坂の上にあります。平日は敷地内をスクールバスが通っていました。大学内には銀行、コンビニ、カフェ、郵便局などさまざまな施設が内設されています。大学の正門から駅方面には多くの飲食店が並んでいてお昼休みになると学生たちでにぎわっていました。放課後や休日はショッピングをしたり、所属していた写真サークルの撮影会に参加したりしながら過ごしました。



後輩学生に伝えたいこと

私が交換留学をしてよかったと思う点は、留学期間中に多くの現地学生と知り合うことができたことです。また、学力社会と呼ばれる韓国の大学での授業の様子や、現地学生の学びへの意識の高さを感じることができたことも貴重な経験になりました。私は4か月間の留学だったため、長期の国内旅行など大学での学び以外の文化体験ができなかったことが少し残念でしたが、これから留学する方はぜひいろんな場所に行って素敵な思い出を作してほしいです。



交換留学レポート

所属：
交流文化学部
交流文化学科 ランゲージ専攻

氏名：
古田 三奈水

留学時期：
2022年度夏季派遣交換留学
(2022年9月渡航)

留学先大学

台南應用科技大学 (台湾・台南市)

留学を志したきっかけ

語学力の向上が第一ですが、それ以外にも、日本にはできない、現地の人と会話してその地の生活の雰囲気や文化も一緒に学びたいと思ったからです。

大学の授業

履修した科目は様々で、私は交換留学生ということで、授業の履修が自由に組めたので色々な授業を履修しました。合計で25単位を履修しました。留学生のための中国語の授業を4単位、英語のリスニング、リーディング、ライティング、スピーキングとそれぞれの授業を10単位取りました。あと、日本の大学で勉強しているものとは全く関係ありませんが、アロマストラテジー、ワイン、素描、プログラミングなどの授業を履修しました。

留学生活

留学生活は、約5か月間という短い期間でしたが、とても充実していました。言葉が伝わらなくても、台湾の人たちは本当に優しく、困っているとすぐに気づいて助けてくれたりしました。また、日本以外からの留学生も多く、色々な国の子と話せて楽しかったです。



後輩学生に伝えたいこと

とにかく何でもやってみてほしいなと思います。言葉が分からなくても大体何とかできます！私は日本にいるときは人の目を気にして行動しなかったことが何度かありましたが、台湾にいるときは、そんな自分のことは誰も見ていないと思い、思ったこと、行動するかどうか迷ったことは全部実行しました。結果的にそれらをして後悔したことはひとつもなかったです。不安も多いと思いますが、留学が決まったら毎日後悔がないように楽しんでほしいです！



交換留学レポート

所属：
交流文化学部 交流文化学科
国際交流・観光専攻

氏名：
原 聖菜

留学時期：
2022年度夏季派遣交換留学
(2022年8月渡航)

留学先大学

UNIVERSITY OF TENNESSEE AT MARTIN (アメリカ)

留学を志したきっかけ

私は将来英語の教員になり、子供たちに英語を好きになってもらいたいという思いがあったので、留学に行くことに決めました。

留学生活・苦労したことなど

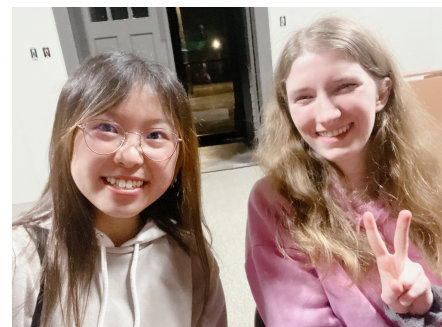
テネシー大学は車がないとどこにも行けない田舎にありますが、地域の人々は優しく、治安が良い場所としても知られるほど、過ごしやすい街です。

私は留学当初、友達ができずに悩んでいました。言葉、文化、環境すべてが日本と全く違いストレスを感じました。しかし、アメリカ人の友達をたくさん作ることが1つの目標だったので、積極的に行動するように心がけました。

大学イベントに参加したり、クラブ活動に参加したり、同じ授業の学生に声をかけたりなど、多くの学生と仲良くなることができました。

テネシー大学の学生は、拙い英語で話す私に対しても優しく、しっかり話を聞いてくれます。私は他の留学生よりも英語が下手だったので、英語を話すことを恐れていました。しかし、友達に「気にせず自分が思ったことを話せばいいんだよ。わからないことはちゃんと聞いてね。」と言われ、そこからだんだん気にせずに話すことができるようになりました。

大学には日本人留学生が3人いましたが、私にとって彼らは心の支えでした。授業などの悩みやストレスがあった際には話し合い、励ましあっていました。



後輩学生に伝えたいこと

私は留学を通して、自分に自信を持つことができ、アメリカでできた友達は私にとって宝物です。辛いこと、大変だったこともありましたが、それを超えるくらい「楽しい」が勝っていました。少しでも留学に興味があるのなら一歩踏み出してみてください！人生で最高の経験ができるかもしれません！！

交換留学レポート

所属：
グローバル・コミュニケーション学部
グローバル・コミュニケーション学科

氏名：
垣見 綾音

留学時期：
2022年度夏季派遣交換留学
(2022年8月渡航)

留学先大学

UNCW (アメリカ)

留学を志したきっかけ

高校生の頃から留学に憧れていました。大学ではグローバルコミュニケーション学部のカリキュラムで留学が必須とされており、入学時から留学を考えていました。しかし、コロナウィルスの影響で渡航が不透明となり、オンライン留学を選択しました。オンライン留学では英語力の低さに未達成感が残り、現地留学の意欲が高まりました。締切も迫る中、英語圏への渡航が可能となり、アメリカの協定校に応募しました。

大学の授業

授業ではビジネス系の科目を選び、英語での授業や異文化の理解に苦労しましたが、努力を重ねながら乗り越えました。

留学生活

渡航時に飛行機の遅延があり、不安を抱えながらの到着でした。寮生活では6人のルームメイトと生活し、最初は圧倒されることもありましたが、お互いに助け合いながら楽しい日々を過ごしました。食事は最初はミールプランを利用し、学内の食堂で友達と食事を楽しんだり、近隣の日本食レストランを訪れることもありました。

留学先のおススメポイント

Wilmingtonはリタイア後に住む街として有名で、安全性が高く、海まで車で10分の距離に位置しており、日差しも強く気温も高いため、夏が好きな人にとっては素晴らしい街です。



後輩学生に伝えたいこと

University of North Carolina Wilmingtonでの交換留学は、留学の夢を叶える素晴らしい経験でした。新たな環境で成長し、貴重な友人や思い出を得ることができました。この経験は私の人生において大きな意味を持ち、将来のキャリアや国際的な視野にも影響を与えるものとなりました。



交換留学レポート

所属：
グローバル・コミュニケーション学部
グローバル・コミュニケーション学科

氏名：
大橋 葵

留学時期：
2022年度夏季派遣交換留学
(2022年9月渡航)

留学先大学

UNIVERSITÄT VECHTA (ドイツ・フェヒタ)

留学を志したきっかけ

高校大学合わせて2度短期留学を経験し、英語圏以外の国に留学したいと思ったからです。実際、ドイツ語はほぼ初心者レベルで留学しましたが、ドイツは英語を話せる人が多く、他国から来ている留学生との会話は英語であったため、英語の能力もさらに伸ばすことができました。帰国後にTOEICを受けたのですが、2年間なかなか変わらなかったスコアを大幅に超え、目標点数を超えることができたので、ドイツに留学して正解だと思いました。

大学の授業

Vechta大学には日本人留学生受け入れの前例がなく、私が初めてでした。日本人もゼロに等しいので、日本語を使う機会はありません。ドイツ語の文法でわからないことがあってもドイツ語、もしくは英語で解説されるため、授業についていくにはどちらかの言語が話せないとなかなか難しいと感じました。

留学生活

留学生活で学んだことはたくさんあります。多国籍の方々との関わり、たくさんの価値観に触れたので、今までの自分の人生を考えさせられるきっかけにもなりました。ルームメイトをはじめ、同じ留学生の友達、愛知淑徳大学に留学していた留学生の友達、Vechta大学の先生方、英語でコミュニケーションを取ってくれた現地の大学生のおかげで、この留学生活が素敵な経験になりました。ドイツ到着後は日本人がいないこと、ドイツ語はおろか、英語も思っていたより話せない自分に失望し、半年間大丈夫かと不安でいっぱいでしたが、最後の月には1人でヨーロッパ旅行ができるぐらいには成長することができました。



後輩学生に伝えたいこと

留学は絶対行った方がいい、と一概には言いきれませんが、自分の努力、周りの環境次第で本当に素敵な経験ができると思います。